

お元気ですか?

第14号

2023年10月発行



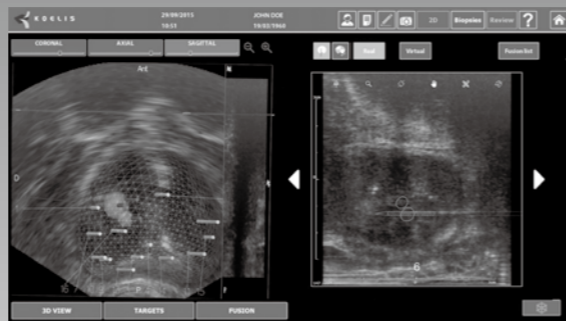
「蕎麦畑のノゴマ」 撮影者：黒澤 恵子

CONTENTS

- 富 紙上ナイトスクール☆シ 救急医療体制の現状 2
- 富 MRI超音波融合前立腺生検導入 3
- 富 オンライン資格確認について 4
- 富 ふれあい看護体験が開催されました 5
- 富 シリーズ職場紹介(施設課) 6
- 富 防火訓練を実施しました 7
- 富 ACPワーキンググループ 8
- 富 シリーズ摂食・嚥下障害の治療 摂食嚥下障害とは 9
- 富 リハビリテーションの関わり おうちに帰る準備 10
- 富 2022年度 患者満足度調査結果 11
- 富 富 地域医療連携だより 12

当院ではMRI 超音波融合前立腺生検を おこなっています

泌尿器科 大澤 英史



前立腺生検の精度をより高めるため、2022年8月よりMRI・超音波融合標的生検システムであるフランスKOELIS社:トリニティシステム®を県内で初導入し、運用しています。MRIと超音波画像を3D融合することで、これまでの前立腺生検と比較して前立腺がんの検出率が向上します。確実に病巣を狙撃することで不必要な生検を減らし、局在診断も可能になることでより適切な治療法の選択が可能になりました。

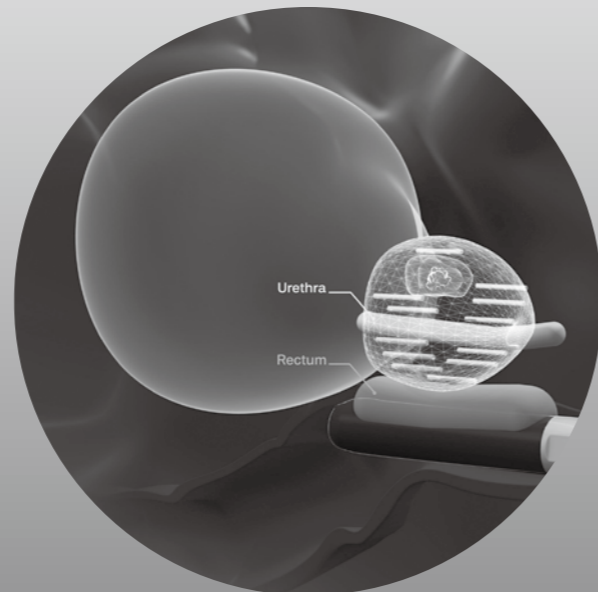
前立腺は男性特有の生殖器官で、尿道の奥にあり主に精液をつくる働きをもっています。前立腺がんの罹患率は50歳代から増加し、高齢になるほど多くなります。2017年の統計では**男性に発症するがんの第1位**となっています。初期には自覚症状がほとんどないため、早期発見のためには検診や人間ドックでの**PSA検査**を行うことが重要です。



PSA検査が基準値を超えていた場合「前立腺がんの疑い」となり、泌尿器科を受診し諸検査を行う必要がありますが、確定診断のためには針を十数箇所刺して組織を採取する**前立腺生検**を行います。従来、生検の前にはMRI検査で前立腺がんを疑う病巣を描出しておくことで組織採取部位の参考にしていました。しかし、術者がMRI画像をイメージしながら行うしかなかったため、MRIで描出される**小さながんが見逃されてしまうケース**もありました。

そこで開発されたのが**MRI超音波融合前立腺生検**です。事前に撮像したMRIを超音波画像に融合させることで**がん病巣をリアルタイムに描出**することができるように、より確実な**狙撃生検**を行うことが可能になりました。これによりがんの検出率が向上し、正確な局在診断が可能となっています。早期前立腺がんに対する治療法は様々で、正確ながん診断および局在診断を行うことが**最適な治療につながっていく**と考えています。

当院ではこのMRI超音波画像融合前立腺生検を1泊2日の入院で、麻酔下に施行しております。麻酔管理のもとで行いますので針を刺す痛みは全くといっていいほど感じません。検査時間も30分程度で行うことができ、体への負担も以前の検査方法と変わりません。検診や人間ドックでPSAの異常を指摘された方、従来の前立腺生検では標的病変が小さく前立腺がんと診断するのが困難であった方、より正確な生検を希望される方、再生検が必要と判断された方など、この生検法により組織採取・診断が可能ですので、詳しくは当院泌尿器科医師にご相談ください。



救急医療体制の現状は どうなっているか

公立富岡総合病院 院長 宮崎 増美

新型コロナウイルス感染拡大の影響によりナイトスクールの休止していますが、予定していた講義内容の一部をお届けします。

紙上ナイトスクール

「家のお父さん、ご飯食べていたら急に茶碗落とすし、モゴモゴと何を言ってるか分からないし、反応がまいちだし、ビックリして救急車呼んだの。富岡が近いのに、運ばれたのは△△市の〇〇病院なのよね。どうしてなの?」
この患者さんは、「脳卒中」が疑われたのです。脳卒中を発症した場合、できるだけ早く専門的な診療が可能な病院に行くことが重要です。脳卒中には、脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血がありますが、近年、脳梗塞の治療は大きく変わりました。

「家のお父さん、ご飯食べていたら急に茶碗落とすし、モゴモゴと何を言ってるか分からないし、反応がまいちだし、ビックリして救急車呼んだの。富岡が近いのに、運ばれたのは△△市の〇〇病院なのよね。どうしてなの?」
この患者さんは、「脳卒中」が疑われたのです。脳卒中を発症した場合、できるだけ早く専門的な診療が可能な病院に行くことが重要です。脳卒中には、脳梗塞、脳出血、クモ膜下出血がありますが、近年、脳梗塞の治療は大きく変わりました。

まいった血管の血栓を点滴で溶かす血栓溶解療法（t-PA）が施行されます。t-PA適応外の場合や、無効な場合には機械的血栓回収術（血管内治療・カテーテル治療）も施行されます。これにも発症からの時間制限があります。24時間365日緊急性の高い治療であり、4〜5人の常勤医師による治療体制を組まなくてはなりません。
群馬県では、1次脳卒中センターとして12病院に医師を集約しています。富岡保険医療圏には1次脳卒中センターは無いので、救急隊は迅速な判断のもとに、高

二次保健医療圏	二. 五次保健医療圏					
	疾病				事業	
	脳卒中	心筋梗塞等の心血管疾患	糖尿病	がん	周産期	小児
高崎・安中保健医療圏 (高崎市・安中市)	西部圏域				西毛圏域	
藤岡保健医療圏 (藤岡市・上野村・神流町)						
富岡保健医療圏 (富岡市・下仁田町・南牧村・甘楽町)						

<2.5次医療圏 令和4年群馬県地域医療調整会議資料改変>

崎もしくは藤岡医療圏の病院に患者さんを搬送する体制を構築しています(2.5次医療圏)。勿論、この超急性期治療の適応のない患者さんは、富岡で治療いたします。急性期疾患の治療後、公立七日市病院に転院していただき回復期リハビリテーションを実施していただくことが多いです。
脳卒中と同じく「専門性」と「時間との闘い」の2つの事を両立させる形に対応しなければいけない疾患に、心筋梗塞があります。令和5年4月より公立富岡総合病院の循環器科医師減員により、循環器超急性期疾患には24時間365日の対応ができなくなりました。このため、夜間・休日の救急搬送受け入れは出来なくなっております。また、小児科救急・休日医療は、西毛地域の病院輪番制で対応しています。医療の高度化・専門化や病院勤務医不足により、現行の2次医療圏より広い範囲で対応する必要があります(2.5次医療圏)。

ふれあい看護体験が開催されました

3 A病棟 看護マネジャー 吉田 純子

コロナ禍で中止されていた、高校生のふれあい看護体験が4年ぶりに行なわれました。このふれあい看護体験は看護協会の運営の1つとして各地区支部で行なわれており、当院は看護協会富岡地区支部として活動をしています。

当院には高校生18名の参加がありました。各部署に2, 3名ずつ分かれ、高校生同士で血圧測定や脈拍測定、看護師とともに足浴や手浴、車椅子移動介助等の体験を行ないました。

「元氣よく、患者さんや家族のことを1番に考えて働く看護師を間近に見て、自分もあの仲間に入りたい。是非看護師になりたい。」と感じてくれたようです。このような活動を行ないながら、私たちの仲間を増やしより良い看護を行なっていきたいと思います。

ふれあい看護体験の担当をさせていただきました。はじめはとても緊張していた高校生たちでしたが徐々に打ち解けてくれて、将来の夢や目指す医療について話してくれました。緊張する姿はかつて自分が看護体験を行ったときの姿そのものでした。自分も看護師を目指してふれあい看護体験に参加しましたが、テレビやお見舞いでしか見たことのなかった病院で実際に見学、体験することで働く自分をイメージすることができました。今の高校生が進学や就職に向けてどのような体験を求めているかを考えることが少し難しく感じましたが、同期とともに看護師を目指し始めた頃の初心を思い出すことができました。自分たちにとっても良い経験となりました。今回の体験で看護師の楽しさが伝わっていたら嬉しいです。
(清水成美)



今回、ふれあい看護体験の病棟担当をさせていただきました。私も高校生の時にふれあい看護体験に参加した経験があり、看護師への憧れと不安な気持ちを持ちながら参加した記憶が少しながら残っています。年月が経ち今度は私が看護師という立場になって学生さんを担当することになり、不思議な気持ちでした。看護師の仕事は大変なことも多いですが、とてもやりがいのある仕事です。それが今回の体験で学生さんに伝えられたのではないかと思います。今回の体験を通して看護の道や医療関係の道に進みたいと思って下さればよいなと願っています。また、看護師になった時(もちろんならなかった方も)今回の体験のことを少しでも思い出してもらえると嬉しいです。
(井上実玲)



オンライン資格確認について

医療情報課



医療機関では、受診された患者さんの医療費を計算するため、患者さんが加入している健康保険の種類、記号番号、自己負担割合及び有効期限等を確認しなければなりません。この作業を『資格確認』と呼び、これまでは健康保険証等に印字された内容を見て確認していました。



オンライン資格確認とは、マイナンバーカードのICチップの情報や健康保険証の記号番号等をもとに、医療機関に設置された専用端末を使用して有効な資格情報をオンライン上で即座に確認することができる制度で、公立富岡総合病院及び公立七日市病院でもオンライン資格確認システムを導入しております。

受診時に資格確認が出来ない場合、医療費が全額自己負担となってしまいます。医療機関を受診される際には、健康保険証又はマイナンバーカードをご持参いただき、窓口又はオンラインでの資格確認にご協力をお願いいたします。

顔認証機能付きカードリーダーの設置場所

オンライン資格確認は、**公立富岡総合病院1階総合受付**及び**公立七日市病院1階総合受付**に設置してあります『顔認証機能付きカードリーダー』でご利用いただくことができます。ご利用の際はマイナンバーカードをご持参ください。

オンライン資格確認のメリット

1. マイナンバーカードが健康保険証としてご利用できるようになります。
※ ご利用にあたっては、予め「マイナポータル」で保険証利用の申し込みをしていただくか、顔認証機能付きカードリーダーでの申し込みが必要です。
2. カードリーダーの操作で限度額情報の提供に同意していただいた場合、限度額適用認定証の申し込みと窓口での提示が不要になり、窓口負担額を自己負担限度額までに抑えることができるようになります。
3. カードリーダーの操作で過去の薬剤情報と特定健診情報の提供に同意していただいた場合、医師がその情報を閲覧できるようになります。
4. オンラインで医療保険の加入状況をその場で正確に確認できるため、受付対応がスムーズになります。

公費負担医療制度をご利用中の方へ

現時点でオンライン資格確認に対応しているのは主保険(国民健康保険や社会保険)のみとなっておりますので、福祉医療や生活保護等の各種公費の受給資格の確認については、従来どおり窓口での医療券のご提示が必要です。(今後順次対応できるよう国の方で検討が進められています。)



防火訓練を実施しました

施設課 課長 畑野 定則

当課の業務の一つとして、写真にもあるとおり、年2回行う、防火訓練があります。今回、令和5年7月6日(木)に行ったものは、主に新入職員を対象に、実際に消火器及び消火栓を使用し、安全な使用方法を確認することを目的に行っている、消火及び放水訓練であります。

ただ、冬場に行っている病棟における訓練は、ここ3年「コロナウイルス感染症流行」により行えておりません。しかし、緊急時に備え、また防災意識を保持するため、何かしら代替え案も検討し継続して対処しております。

火事や地震などの自然災害は、いつ何時起こるかわかりません。

そして、コロナウイルス感染症流行により、災害対策に対する意識がかなり希薄になっていることは、否めません。よって、何とか今年度は病棟における防火訓練を実施し、防災意識に対するモチベーションを高めたいと考えております。



シリーズ職場紹介 施設課

我々施設課のある場所をご存じでしょうか？

本館の外の、エネルギーセンターという別棟にあります。業務は全て男性五名で業務を行っております。

設備についてですが、病院の心臓部であるボイラー、発電機、受水槽、また、一昨年更新した吸収式冷温水機など、非常時や災害時に対応するための各設備を兼ね備えてあります。

業務内容といたしましては建物の増改築、土地建物維持管理(富岡総合、七日市、養護学校、保育所、医師住宅、看護宿舎、駐車場等)、エネルギー関係(電気、ガス・水道)、院内設備等の修理、一般及び医療廃棄物の処分、植樹、警備、清掃等多種多様に対応しております。

令和四年度は、老朽化した非常用電源設備、第二電気室、また、

泊りドック廃止に伴い手狭になった健診センター(人間ドック)の改修工事を行いました。

当院も開院より約三十年以上が経過し、各施設が老朽化し、メンテナンスが必要となっております。また、昨年度は、ウクライナ問題や円安問題で、光熱水費の高騰、原材料の不足による物品の供給の遅れ等々、直面する各問題に対応してまいりました。そして、コロナ感染に係るいくつかの工作物、オリジナルの創作物など、臨機応変に対応しております。

これから検討課題とされる病院建替えなど、数々の問題にも立ち向かっていく所存です。

まだまだコロナは続きます。我々は、その前面に出ることはないですが、日々黒子に徹し、陰ながら病院のアシストに頑張ります。

そして、地域住民に対して、西

毛地区唯一の災害拠点病院としてその機能を発揮し、地域住民の安全確保としての職務を行ってまいります。

これからも、施設課にご協力をよろしくお願いいたします。





あなたのところによりそう
Advance Care Planning

こんにちは ACPワーキンググループです！

2病棟 皮膚・排泄ケア認定看護師 工藤 亜希子

アドバンス・ケア・プランニング (ACP)とは病状の変化に備え、この先の医療やケアについて、患者さんを主体にその家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合い患者さんの意志決定を支援するプロセスのことです。厚生労働省は2018 (平成30)年に愛称を「人生会議」に決定して普及啓発に取り組んでいます。また、11月30日 (いい看取り・看取られ)を「人生会議の日」とし、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日としています。国が推進するように当院でも入院患者さん全員に対して、望む医療、望まない医療、今後過ごしたい療養環境などについて以下の点に重きを置いて聞き取りをしています。

患者さんの希望に沿った、医療及びケアを具体化するために公立七日市病院では2023 (令和5)年4月にACPワーキンググループを立ち上げました。ワーキンググループでは本人の生き方に寄り添う医療を目指して、毎月第2火曜日に会議を実施していて、聞き取りが上手くいくように手順を検討するほか、職員ひとりひとりACPの見地が深まるよう研修会も企画しています。患者さんが望む人生が送れるよう支援します。

- ①病状・治療について
- ②延命について
- ③退院先について
- ④療養・生活について



シリーズ 摂食・嚥下障害 の治療

摂食嚥下障害とは 摂食嚥下支援チームでの言語聴覚士の役割

言語聴覚士 山田 紘大

嚥下障害という言葉を知ったことはありますか？今回は嚥下障害の説明と摂食嚥下支援チームとしての言語聴覚士の役割についてお話しさせていただきます。

嚥下障害とは？

食事や水分がうまく食べられない、飲み込めないような状態のことです。うまく食べ物を噛めない、口からこぼれてしまう、飲み込むまで時間がかかる、むせてしまう、食後に痰が多くなるなどの症状が出やすいです。このように、飲み込みに問題がある方に関して、当院では摂食嚥下支援チームがサポートしています。

摂食嚥下支援チーム

とこの言語聴覚士の役割

医師、摂食嚥下障害認定看護師、管理栄養士、言語聴覚士で構成されています。その中で、言語聴覚士は、患者さんの



チームミーティング

嚥下評価を行い、適切な食事形態を提供し、安全に摂取できる姿勢や摂取方法について検討して、その情報を他職種で共有します。必要に応じて嚥下内視鏡検査も施行して、検査結果をもとにチームメンバーでカンファレンスを行います。飲み込む機能が悪くなり、口から食べられなくなってしまう方には、どのような物なら食べられるのか、

味覚を楽しむことができるのかを模索し、最後まで口から食べる楽しみを味わって頂けるように関わっています。

摂食嚥下支援チームは、一人でも多くの方に安全に口から食べる楽しみを味わっていただけるようにチーム一丸となりサポートしています。



内視鏡下嚥下機能検査で介助中の言語聴覚士

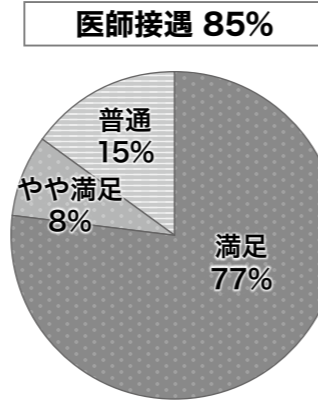
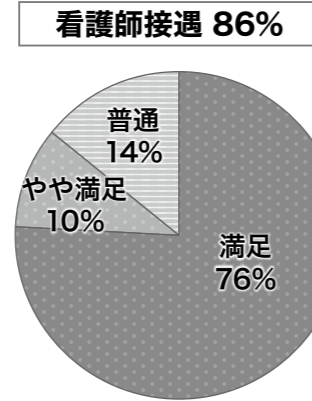
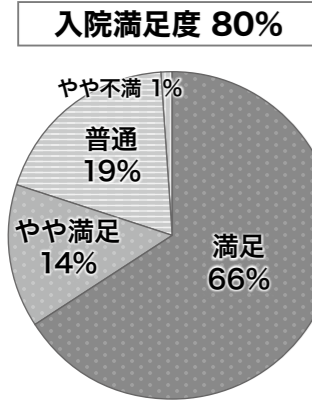
2022年度 患者満足度調査結果



より良い病院運営及び医療サービスの向上を図ることを目的に、患者満足度調査を毎年行なっております。

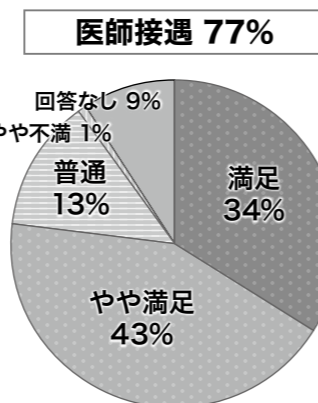
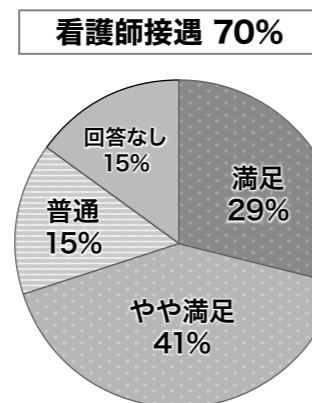
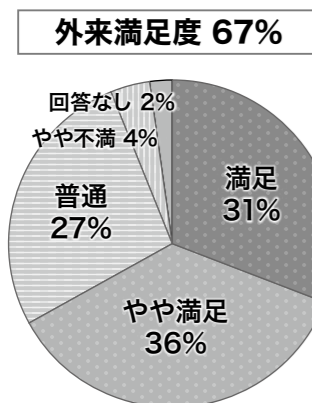
調査概要 入院

調査期間:2022年10月～2023年3月(7ヶ月間)
調査方法:無記名アンケート



調査概要 外来

調査期間:2023年1月23日～1月27日(5日間)
調査方法:無記名アンケート



調査結果

満足度に関する質問に対して、「満足」「やや満足」「普通」「やや不満」「不満」の5段階評価で回答していただきました。入院診療に関する満足度80%、医師の接遇85%、看護師の接遇86%、その他の職員の接遇81%で2021年度より5%低下しているという結果でした。改善策として、2023年6月に全職員対象で接遇向上のために接遇研修を実施いたしました。

外来診療に関する質問に対して、満足度67%、看護師接遇70%、医師接遇77%、受付の接遇50%、サービス体制全般について50%という結果でした。

入院外来ともに自由記載欄にご記入いただいた意見につきましては、接遇委員会で各部署に周知しております。皆さまからいただいたご意見を今後の「医療サービスの向上」に役立てて参ります。ご協力ありがとうございました。

2023年8月 公立七日市病院 接遇委員会

リハビリテーションの関わり

おうちに帰る準備-家屋調査の流れ-

回復期リハビリテーション係 係長 高橋茂

前回、家屋調整の必要性について述べましたが、今回は当院のリハビリテーションスタッフが実施している家屋調査について紹介いたします。

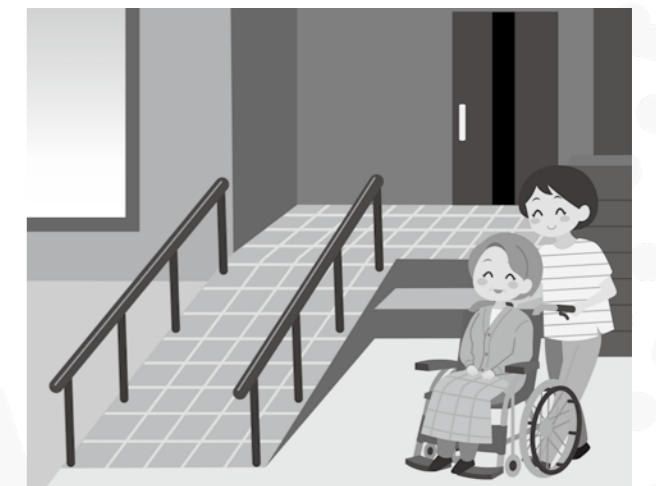
入院患者さんが自宅への退院及び家屋調査を希望された場合、担当のリハビリスタッフから連絡のうえ日程を調整します。

調査にはご本人も同行していただき、ご自宅の中を実際に動いてみて生活に必要な環境や動作方法を確認します。しかし、場合によってはスタッフのみでご自宅へ伺うこともあります。患者さんは病院の車に同乗することができないので、ご家族に送迎をお願いする必要があります。以前は少しご自宅で過ごしてから病院に戻ることもできたのですが、現在は感染対策もあり最小限の外出で調査しています。出発前に外出届を提出してよいよ出発となります。

ご自宅では、患者さんがどのように過ごされていたか話を聞きながら環境と動作を確認していきます。トイレや浴室、玄関などの出入り口、寝室、居間、台所など生活に必要な箇所を重点的に確認しますが、本人や家族の希望も取り入れます。必要があれば家屋周辺の環境についても確認することがあります。いずれも段差の高さを測ったり写真を撮ったりして、調整案の作成に活用します。

介護保険の認定を受けている場合には、なるべく担当のケアマネージャーに同席をお願いしています。退院後の家屋調整では介護保険が適応する場合も多く、同席することでスムーズに準備が行なえるようになります。

調査実施後はなるべく早めに家屋調整案を作成してご家族やケアマネージャーに提出します。介護保険を利用して家屋改修を行う場合、市町村での現地調査を経て見積もりを出し、決裁されてから改修が始まる流れとなります。家屋調整案を提出してから1ヶ月～1ヶ月半かかることもあるようなので、なるべく早めに日程を調整するようにしています。



公立七日市病院からのお知らせです！

ホームページリニューアル

更新にあたり利用される皆さんにわかりやすい表現と探しものがすぐに見つかるレイアウトを心がけました。当院をご利用の際に心配事などありましたら、ぜひ、ご覧ください。

これからも、引き続きご利用の皆さまのお役に立つ情報発信に努めます。



7/18

地域に向けた研修会

褥瘡対策委員会は富岡甘楽地域内にある介護事業所の職員を招いて研修会を開催しました。今回は介護施設でも取り扱うことが多いオムツについて、株式会社光陽のスタッフを講師に行いました。感染症感染の懸念から人数を制限したため、参加は13名に留まりましたが「おむつやパットの選択方法がわかった」「ケアの基本がわかった」などの感想が寄せられ、日常ケアに対する学習の大切さを改めて感じました。

病院が地域のケアに関わることで、新たな気づきが少しでも増えるよう今後もこのような企画に取り組みたいと思います。

7/26

ふれあい看護体験

高校生が看護師の仕事を経験するふれあい看護体験(群馬県看護協会富岡地区支部主催)を公立富岡総合病院と同様に受け入れました。高校1～3年生の12名が院内各所に出向いて、医療活動を見学するほか、感染防御服の試着やとろみなどの嚥下補助食の味見、バイタル測定などを体験しました。次世代を担う方々が、これを機に看護に興味を深めていただくと嬉しいです。



発行

富岡地域医療企業団 公立富岡総合病院

〒370-2393 群馬県富岡市富岡2073-1

TEL.0274-63-2111

FAX.0274-64-1406

<http://www.tomioka-hosp.jp>

tomihp@mail.gunma.med.or.jp



富岡地域医療企業団 公立七日市病院

〒370-2343 群馬県富岡市七日市643

TEL.0274-62-5100

FAX.0274-62-5211

<http://www.nano-hosp.jp/>

nanobyin@nano-hosp.jp

